

令和 5 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000632	事業の開始年月日	平成30年7月17日
		指定年月日	平成30年4月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘		
所在地	(〒244-0815) 神奈川県戸塚区下倉田1516		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2ユニット
自己評価作成日	令和5年9月12日	評価結果 市町村受理日	令和5年12月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"><li>入居者様にとってなにが一番か常に考え、入居者様主体で共に過ごしている。</li><li>レクリエーションが豊富。毎日15時のおやつを手作りしている。</li><li>入浴は日にちを決めず、入りたい方は毎日実施している。</li><li>毎日お散歩やドライブ等、外出レクを取り入れている。</li><li>行事を盛大におこなっている。</li></ul>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年10月24日	評価機関 評価決定日	令和5年11月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇利用者寄り添うケアの実践 ・理念の「ご利用者様と一体感のある介護サービスを創造する」のもとに、利用者一人ひとりの意向に合わせて向き合っている。入浴は利用者の希望を聞き、毎日入ったり、入浴時間も午後から夕方方の希望に沿って対応している。様々な行事食を企画提供し、利用者は季節や行事を感じながら豊かな生活を楽しんでいる。  ◇職員を育てる仕組み ・運営法人内に研修施設を設け、社内研修を取り入れ、学ぶ機会を多く提供している。資格取得援助制度があり、費用の全額を補助している。  <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇毎日の散歩で利用者の気分転換、体力維持を図る ・コロナ過であっても、天気の良い日は全員が毎日散歩を楽しんでいる。近くの公園、古民家を楽しみ、職員の食材買出しと一緒に出かけている。これらを通じて、気分転換、体力維持に努めている。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘
ユニット名	ラベンダー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度のミーティングで理念に基づくケアが出来ているか再確認を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念の「ご利用様と一体感ある介護サービスを創造する」のもと、利用者のその人らしさを尊重し、就寝、食事、入浴等は利用者の希望を取り入れて実行している。</li> <li>・ケアカンファレンス時に、理念の確認をしている。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩で外出した時に、地域の方々と挨拶や談笑を行い、コミュニケーションをとっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも散歩を実施している。散歩の途中で近隣住民との交流がある。</li> <li>・コロナ禍以前は、ハロウィンパーティーに近隣の人を呼んで一緒に楽しんでいた。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスがあり、直接関わる事があまりできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告を行い、そこから出た意見を現場に伝え、サービス向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は年6回実施している。会議では自治会長から災害時の避難について提案があり、検討している。</li> <li>・ケアプラザ（地域包括支援センター）の担当に紙芝居のボランティアの派遣を相談している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して下さる担当者を意見交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区高齢課担当から、結核の検査でレントゲン審査の案内がある。又、コロナウイルスクラスター発生時には連絡を頻繁に行っていた。介護度認定審査で連絡をしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い、身体拘束の防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体拘束排除マニュアル」を備え、身体拘束に関する事業所方針を明確にしている。</li> <li>・身体拘束防止委員会を年6回実施している。会議でコロナ時の隔離対策と身体拘束との関連を話題にした。</li> <li>・職員には、年2回身体拘束と虐待防止の研修を行っている。</li> </ul>	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自調べてきたことを発表する機会をもち、虐待防止を努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)コムラード虐待防止対応規程を制定し、職員に周知している。</li> <li>・職員にスピーチロックを疑われるような発言があった場合は、その場で管理者が注意をし、ケアカンファレンスでも確認している。</li> </ul>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がいる為、後見人様・保佐人様とのやりとりを通じて知識を身に付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の家族と連絡をとり、十分な説明を行い理解していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や近況報告のお電話をするときに、何か意見があれば反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ過で面会は、事業所の玄関先で行っている。利用者家族からその場で意見があれば聞いている。</li> <li>・利用者家族との電話連絡で、利用者の近況を伝え、薬の処置等必要な事項を伝え、家族意見を聞いている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから意見や案を提案しやすい環境になっている。	・フロア会議と職員会議（施設長・リーダーが参加）を月1回開催し、職員意見を聞く機会を持っている。 ・職員意見で、薬やガーゼ交換の処置表を作成し、職員全員に周知し、同じ行動が取れるよう改めた。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援をおこなっている。 がんばりを把握し、賞与等へ反映し てくださっている。	・施設長と職員との面談で、一人ひとりに合った目標を決めている。これにより職員の仕事への取り組みが明確になった。 ・子連れ出勤を認めたり、休みを取りやすい環境を作って、働きやすい職場作りに努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を取り入れ、学ぶ機会を多く提供して下さっている。	・資格取得援助制度があり、費用の全額を補助している。 ・日常のケアの中での介助方法や、看取り期の不安解消等、職員の困りごとの相談に応じている。 ・口腔ケアや高齢者虐待・身体拘束等日常ケアに関する研修を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の職員関わる機会がある		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に事前にお話しする機会を設け、ご本人を理解するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に見学にきていただき、ご家族様から困りごとや、施設に望まれていることなどを聞き、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のご相談がきたら、他事業所の小規模多機能の利用とどちらがふさわしいか考え提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るお手伝いはやっただき、本人の思いを尊重しながら関わるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のその時々困りごと等をご家族様にもお伝えし、共に解決していくよう努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話を自由に所持していただき、外部との連絡が途絶えないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時のアセスメントで利用者や家族から情報を得て、利用者の生活歴を把握している。</li> <li>・コロナ禍以前は、馴染の美容院やレストランに出かけたり、家族とドライブや墓参を行う利用者がいた。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がうまくかかわっていただけるよう、職員が間に入り関わり合いをもてるよう。支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化などで、施設を退去することになった方には、その後の施設へ情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日入浴したい方には毎日入っていただいている。臥床時間は決めず、本人の思いを聞くようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活は時間で限ることをせず、できるだけ利用者の希望を叶えるよう支援している。</li> <li>・表現困難者には、以前の暮らしぶりから好き嫌いを推測している。</li> <li>・利用者の状況はケアカンファレンスで共有し、ケアに繋げている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報をもらったり、本人との会話から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの変化を把握する努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、主治医と何が一番かを話し合い、ケアプランに反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランは長期6か月、短期3か月の有効期間を設定している。</li> <li>・家族意見は、面会時や、事業所からの月1回の電話連絡や毎月の手紙で徴収している。</li> <li>・モニタリングはケアカンファレンス時に内容を確認している。</li> </ul>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	データ、アクション、リアクション、を用いて記録を行い、申し送りや、カンファレンスで情報共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応したサービスをおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売車がきて、ご自分で選び買い物をされている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と良好な関係を築き、皮膚トラブルの改善や、高血圧の改善等、適切な医療を受けられている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力内科医の月2回訪問診療、訪問看護師の週1回健康確認、歯科医の週1回訪問診療がある。</li> <li>・神経科等の従来かかりつけ医には基本的に家族が付添い、診断結果は情報提供依頼書で協力内科医と情報共有している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最低でも週に2～3回、訪問看護と連絡を取り連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院での状況を聞いたうえで、ホームにもどり出来る事、出来ないことを伝え、関係をつくっている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向、思いを聞き、介護士としての思いを伝え、密に話し合うようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に重度化や終末期に関する対応方針について家族と本人の了承を得ており、その段階に至った場合は医師、家族、事業所が密接に連携して適切に対応している。</li> <li>・職員は看取りに関する対応や心構えについて研修を受けている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師から事前に助言をもらっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルスがあり、協力体制は気づけていないが、運営推進会議で、今後話をつめていく予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含めて年2回、利用者も参加して防災訓練をし、消防署員から避難方法についてアドバイスを受けている。</li> <li>・水、食料の備蓄を心がけ、防災用品をリスト管理している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水、食料3日分の確保とリスト管理をすることが望まれます。</li> <li>・防災訓練に関し地域住民との双方向の協力体制を構築することが期待されます。</li> </ul>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定することはせず、一人ひとりあった声掛けをおこなっている。	・利用者の人格やプライバシーの尊重を絶えず意識して丁寧な言葉かけやケアに心がけ、フロア会議等でケア方法や態度を振り返っている。 ・新入社員は接遇について研修を受け、人格尊重やプライバシー確保の大切さを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく生活を送れるように、思いを聞くよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があったときは、無理に入ってもらおうとせず、ご本人のタイミングに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅からご自分のお洋服をもってきてもらっている。どのお洋服がいいか選んでもらっている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯を一緒につくったり、盛り付けを手伝ってもらっている。	・食材をスーパーで調達して利用者と共に調理し、利用者の好みを反映できている。2か月ごとに全員採血し医師の指導(減塩等)を得ている。 ・様々な行事食を企画提供し、利用者は季節や行事を感じながら豊かな生活を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1000cc以上は水分を摂取できるように提供している。その時飲みたい飲み物を聞くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から助言をもらいながら、口腔ケアをおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時にトイレ誘導をおこなうと同時に、排尿間隔があいているときや、レクリエーションの前後に声掛けを行っている。	・排泄チェック表により個人別にトイレ誘導しており、殆どの利用者はリハパン、布パン使用にて自立を目指している。 ・夜間は2時間毎の職員巡回時に必要に応じて排泄誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージをおこなっている。全介助の方も、便秘にならないように、トイレ誘導をおこない排便を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴希望や、午後に入浴希望といったひとりひとりの希望にあわせている。散歩のあとにシャワー浴の希望があれば実施している。	・2日おきの入浴を基本とするが、入浴回数、日、時間帯等は個人の希望を優先している。 ・入浴剤、季節の柚子湯等を楽しみ、入浴中は歌や職員との会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はデイルームのTVを消し、洗い物を早めに済ませ、物音をたてないように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説の紙がファイリングしており、常に何を服薬しているか確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理のお手伝いや塗り絵、自然を見に行く等、その人の求めることを支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	田んぼを見に行ったり、ホームセンターへお花を買いにいたり、ドライブをしたり、外出を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は全員が毎日散歩を楽しんでいる。近くの公園、古民家を楽しみ、職員の食材買出しと一緒に出かけている。</li> <li>・昼前と夕方に職員のリードの下で体操をしている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋がきたときは、お預かりしているお小遣い袋を渡し、ご自分で支払うことができる喜びを感じられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望があったときは、出来るように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、空調の調節を行い体調管理をおこなっている。消毒を一日3回おこない、清潔保持に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日3回消毒し、夜勤時に掃除、モップ掛けを行い、共用空間の清潔清掃を維持している。不快な臭いや騒音はない。掃除には利用者も参加している。</li> <li>・季節飾り、行事写真、カレンダーを掲示し見当識維持に努めている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間を過ごしたい時は、居室で塗り絵をおこなったり、自由に過ごせる環境を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持参していただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所が用意する設備（エアコン、ベッド、クローゼット等）以外に、TV、机、椅子等の使い慣れたものや仏壇、家族写真等を配置・掲示し、居心地よい居室にしている。</li> <li>・季節の衣替えや室内模様替えは職員と利用者が行っている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLを把握し、できることを見つけ、自立した生活が送れるように支援している。		

事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘
ユニット名	ジャスミン

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に一度のミーティングで理念に基づくケアが出来ているか再確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩で公園へいったときは、地域の方をお話をされ、交流されている。近所の方の家の前で立ち話をされることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスがあり、直接関わることがあまりできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告を行い、そこから出た意見を現場に伝え、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの空き状況をお伝えしたり、運営推進会議でお話をして、関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い、身体拘束の防止に努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自調べてきたことを発表する機会をもち、虐待防止を努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様がいる為、後見人様・保佐人様とのやりとりを通じて知識を身に付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の家族と連絡をとり、十分な説明を行い理解していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時、お電話があったときにご家族からもらった意見を記録に残し共有し、運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから意見や案を提案しやすい環境になっている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援をおこなっている。 がんばりを把握し、賞与等へ反映してくださっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を取り入れ、学ぶ機会を多く提供して下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の職員と関わる機会があり、いろいろな研修と一緒に出席することがある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に事前にお話しする機会を設け、ご本人を理解するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に見学にきていただき、ご家族様から困りごとや、施設に望まれていることなどを聞き、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のご相談がきたら、他事業所の小規模多機能の利用とどちらがふさわしいか考え提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から色々と教えてもらうことも多く、一日一日を大切に暮らしを共にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の困りごとをご家族と一緒に解決していけることもあるので、現状を伝え、一緒に支えていけるように支援をおこなっている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りに一緒にいたり、行きつけの美容院へ送迎をしたりと、関係が途切れないように支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士関わり合いがもてるよう、全体でレクリエーションや行事をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化などで、施設を退去することになった方には、その後の施設へ情報提供を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	無理強いせず、一人ひとりの思いに耳を傾けている。困難な場合は表情から読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報をもらったり、本人との会話から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態や、体の状態を把握し、それを職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様からの要望を聞いたうえで、主治医、職員でケアを話し合いケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	データ、アクション、リアクション、を用いて記録を行い、申し送りや、カンファレンスで情報共有をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応したサービスをおこなっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売車がきて、ご自分で選び買い物をされている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人からの訴え、ご家族からの要望を大切にし、介護士が主治医へ相談をし、適切な助言をもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、看護TVを通して相談をおこない、必要であれば主治医へつないぎ、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの状態をお伝えし、入院中のケアに活かしてもらえることをお伝えしている。退院前には、帰設後、安心して暮らせるように事前に情報をもらうようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向、思いを聞き、介護士としての思いを伝え、密に話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発作が起きた時の座薬のタイミングや、意識消失したときの対応方法等、事前にケアカンファレンスで共有を行い、研修もおこなうようにしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルスがあり、協力体制は気づけていないが、運営推進会議で、今後話をつめていく予定。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定言葉や、指示言葉はつかわず、常に感謝の気持ちを忘れず言葉かけをおこなっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	臥床するかしらないか、レクリエーションに参加するかしらないか、おかずに何をかけるか等、一つ一つ小さなことでも問いかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間は本人のペースに合わせている。入浴の拒否があったときは無理にお誘いはせず、タイミングをずらしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたいかた、髪を伸ばしたい方、ネイルをしたい方、一人ひとり自分らしく暮らせるよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えるときに、入居者から希望を聞くようにしている。おやつも一緒につくり、食事の楽しみをもてるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方、高血圧の方、塩分不足の方など、一人ひとりにあった水分・食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から一人ひとりの口腔ケアのポイントを助言してもらい、助言にあったケアをおこなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表から排泄パターンを読み取り、失禁が減るよう支援している。利尿剤を服用している方は排尿量の多い時間、少ない時間を把握しパットの大きさを変えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方にはホットミルクを提供したり、体操・散歩をおこない、腸の動きが良くなる様に支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定の日でなくても、本人からの希望があれば入浴を実施している。皮膚トラブルがあった場合は、皮膚の状態に合わせて入浴を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前までTVをみて過ごされていた方は居室でゆっくりTVをみてから就寝してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方表で薬の変更があった場合は一目で確認できるようにしている。薬箱に服薬している薬の薬説が貼ってある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、歌、運動、一人ひとりお好きなものがあるので、楽しみをもって生活ができる様に支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	江の島までドライブへいたり、大きな公園でピクニックをしたりと、バーベキューを行ったり、全入居者が外に出て過ごすことができるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方にはお財布をもってもらい、お店で自由にお買い物を楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、年賀状等、大切な人との関りが途切れないように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リラックスしてすごしてもらえるように、アロマをたいている。整理整頓担当が、行き届いていない汚れている所を指摘し、生活空間をきれいに保つよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で塗り絵や編み物をされる方がいたり、談笑されている方がいたり、居場所作りを大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持参していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLを把握し、できることを見つけ、自立した生活が送れるように支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター幸ヶ丘

作成日 令和5年9月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	入社当初の指導するマニュアルはあるが、継続的なマニュアルがない	勤務年数が長い方にも、目標をもって働いてもらう	アセッサーをもちいて、自己評価、他者評価をおこなう	6ヶ月
2	2	コロナが始まってから、地域の方と触れ合う機会がなくなってしまった	地域の方とつながりをもつ	運営推進会議で自治会長様と情報交換をおこない地域の行事に参加する	6ヶ月
3	3	地域の方にGHを理解してもらえていない	認知症を正しく理解してもらう	ホームで行事を開催し、地域の方を招く 認知症カフェに参加 ケアプラザ主催の認知症の方も参加できる行事に参加する	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。